

○目標となる資質

規律性・道徳性、コミュニケーション能力、思いや考えの表現力

○指導のねらい

登場人物の気持ちを体験的に考えることを通して、規律ある集団を守ろうとする意思と態度を育てる

○準備するもの

資料「ブランコ」×児童数、挿絵（ペープサート用、黒板掲示用）

○教育課程、実施時期

特別の教科道徳、ある程度クラスの環境に慣れ、人間関係が固定化され始めた頃

○留意点など

ロールプレイができるような場所を確保し、挿絵などの具体物を用意して、資料の場面をイメージできるように留意する

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時のめあてを知る ・休み時間で困ったことを思い出す	・休み時間の遊びの中でトラブルになったこと、困ったことについて発表させる
みんなが気持ちよくすごせるにはどうすればいいだろう		
展開 35分	2 資料「ブランコ」を読む 3 リスさんが「どうぞ」と言った気持ちを考える 4 周りの動物たちはキツネさんに何と言えればいいかを考える 5 ロールプレイをして登場人物の気持ちを考える	・教師が範読し、リスさんがブランコで遊ぶことを楽しみにしていることをおさえる ・キツネさんの自分勝手な行動に対して、断ることができなかったリスさんの気持ちを考えさせる ・悲しい気持ちになった他の動物たちは、どうすればいいのかを考えさせる ・自分だったらキツネさんにどう伝えるかを考えるように促す
まとめ 5分	6 授業のふりかえりをする	・規律を守りみんなが気持ちよく過ごせるために自分にできることをふりかえらせる

○資料「ブランコ」について

本授業は、みんなが気持ちよくすごせるためにはどうすればいいかを考えることで、より良い集団を作ろうとする態度を養うことを目的としている。本資料のような状況が実施クラスで起こっているような場合も考えられるため、クラスの状況を見て、資料の取り扱いに配慮する。

○「リスさんが『どうぞ』と言った気持ちを考える」について

本当は嫌なのに、「どうぞ」としか言えなかったリスさんの気持ちを考える。いつも休み時間ごとにブランコで遊ぶことを楽しみにしていたこと、無理やり横入りをされて嫌だったことなど、資料に書かれていない部分のリスさんの気持ちを含めて児童に気づかせたい。その後、下を向いて顔が上げられないリスさんの様子に注目させながら、リスさんの気持ちに寄り添わせ、言い返さなくて悔しい気持ちや悲しい気持ちを理解させる。

○「周りの動物がキツネさんに何とさえばいいかを考える」について

理不尽な行動をするキツネさんに対し、一緒に並んでいた動物たちがみんな楽しむために何とさえばいいかを考えさせる。きまりを破ることやルール違反はダメだということを、どのように伝えればいいかに着目して考えさせる。その際、下を向いて悲しんでいるリスさんのつらい気持ちや、それを見ていた周りの動物の悲しい気持ちに共感させながら、その思いに寄り添わせながら自分なりの言葉で伝えられるよう導くようにする。

○「ロールプレイをして登場人物の気持ちを考える」について

4～5人のグループを作り、キツネさんが横入りする様子を見ていた周りの動物たちが、キツネさんに自分たちの思いを伝える場面をロールプレイする。まず、グループでリスさん役、キツネさん役、クマさん役、ネズミさん役、シカさん役の配役を決める。人数が足りない場合は、教師が入るか、周りの動物の数を減らす等して対応する。

ロールプレイの手順	注意点
①クマさん、シカさん、ネズミさん、リスさんの順に並ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に場面を想起させられるよう、ロールプレイをする前に教師が例を示すなどしておく ・場面が思い浮かばない児童にはあらかじめ言葉かけの例を示しておく、動物たちの思いを伝えられるようにしておく ・同じような言葉になっても構わないが、自分で伝えられるよう口調や表情等にも意識させる
②キツネさん横入りする	
③キツネさん 「いいよな」	
④リスさん 「どうぞ」	
⑤ネズミさん 「 」	
⑥シカさん 「 」	
⑦クマさん 「 」	
⑧キツネさん 「わかったよ。リスさんごめんね。」	
⑨リスさん 「いいよ。わかってくれてありがとう。」	

ロールプレイをした後、リスさん役やキツネさん役をした児童は、周りの動物たちの言葉を聞いて、どのように感じたかをグループ内で交流すると、自分の思いや考えが伝わったかがより実感できる。ロールプレイが一通り終わったら、役割を交代して全員が周りの動物役をできるようにする。キツネさんがみんなのルールを守らないことで、みんなが悲しい思いをしていることに注目させるために、どんな言葉を伝えても否定したり認めようとしなかったりするキツネさん役を教師がしてみるのも良い。クラスの状況によって、ロールプレイの実施が難しい場合にはペープサート等を用意し、発表された言葉で意見を交流することが望ましい。

ブランコ

森の学校には たくさんのおうぐがあります。休み時間には

みんなが いろいろなうぐで あそんでいます。中でも

一番 人気のあるのが、ブランコです。休み時間になると、

みんなが いっせいにあつまり、 いつも ながいれつが

できています。 リスさんも ブランコが大すきで、

休み時間には いつも ならんでいました。人数が 多い時には

時間がなくて ブランコに のれない時もありました。

今日の 休み時間は、 早く ならぶことが できたので、

ブランコに のれそうでした。

でも、 じゅん番を まっていても、

なかなか 前に すすみません。よく見ると、

一番 はじめに のっていた キツネさんが、

もう10回もいっているのに つぎのウサギさんに

なかなか かわろうとしないのです。

しばらくして、 まちきれなくなった ウサギさんが

「キツネさん 10回のったよ かわって。」



と言うと、しかたなく キツネさんは ブランコを おりました。
そして、ならんでいる れつの後ろうしろに 歩いてきて、
いきなり リスさんの前まえに 入ってきたのです。

リスさんは おどろいて なにも言えなかったのですが、

キツネさんに

「いいよな。」

と言いわれて

「どうぞ。」

と言いって、 下をむいてしまいました。

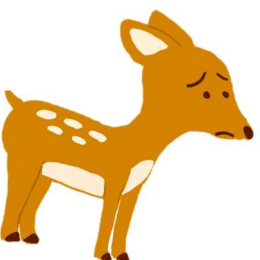
それから リスさんは 下をむいたまま

かおを上げませんでした。

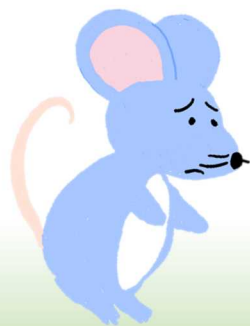
それを見ていた クマさんや シカさん、

ネズミさんたちも、 かなしい気もちに

なりました。







ペープサート・ロールプレイ用



ペーパーサート・ロールプレイ用



ペープサート・ロールプレイ用



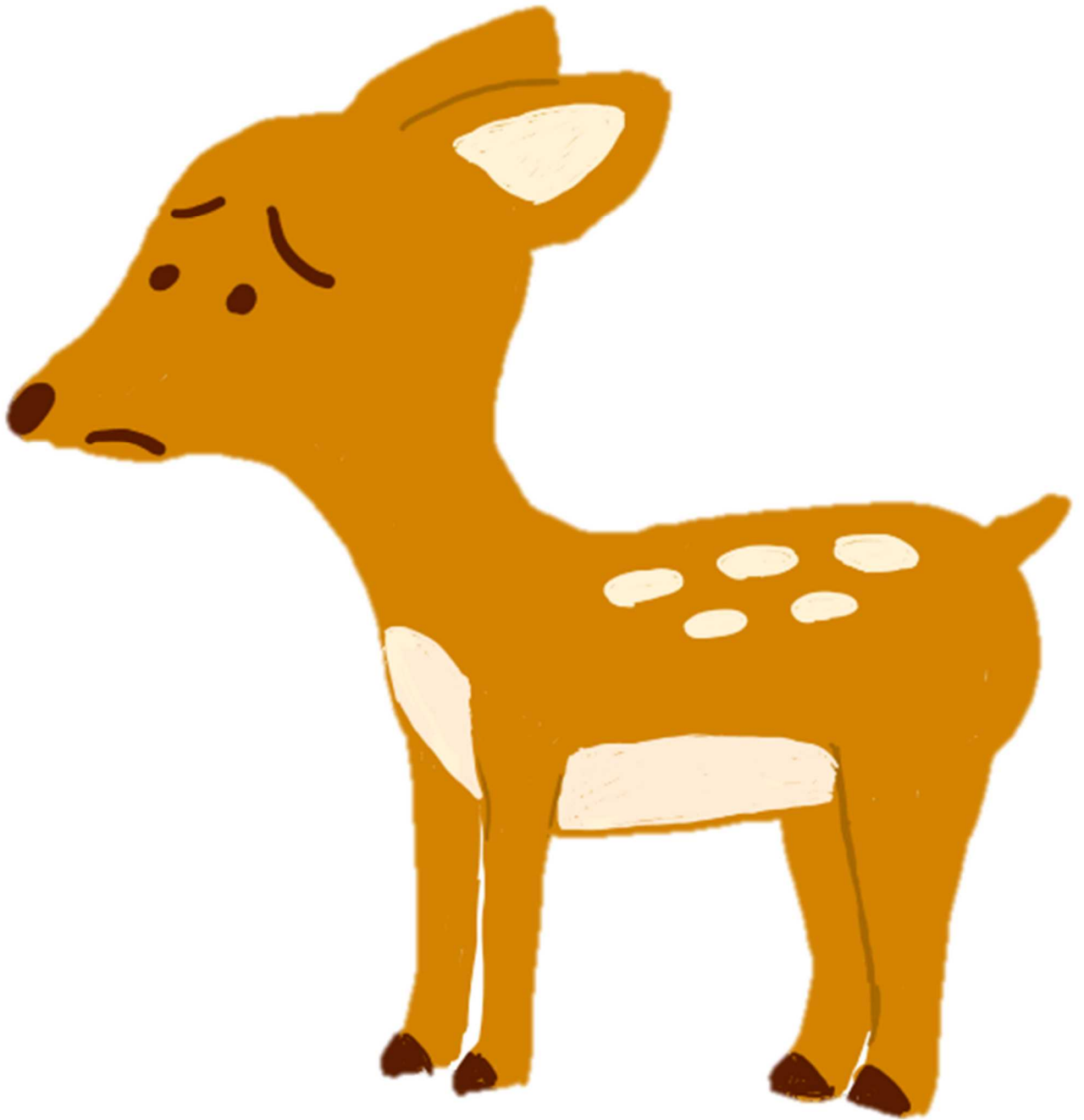
ペープサート・ロールプレイ用



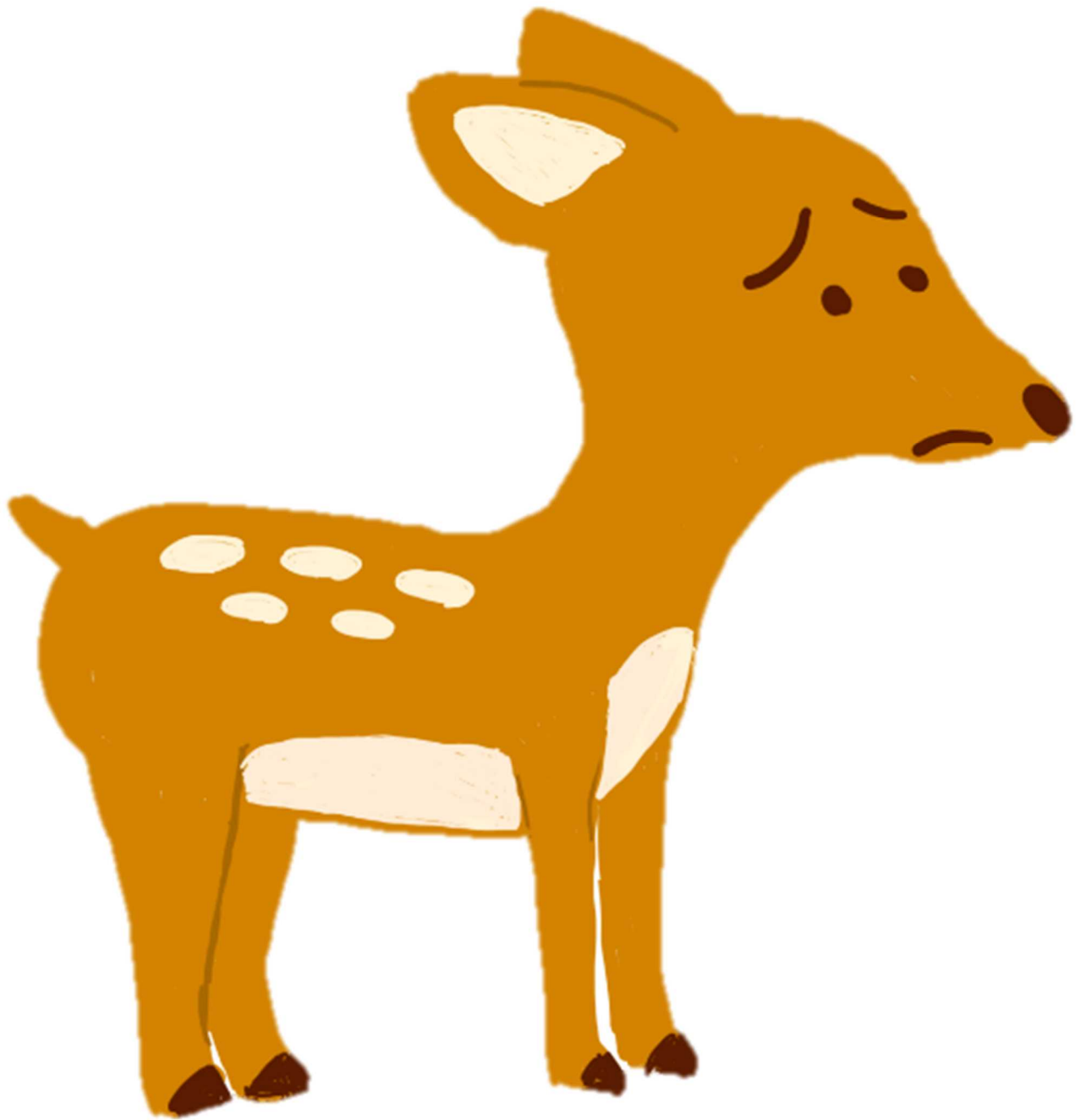
ペープサート・ロールプレイ用



ペープサート・ロールプレイ用



ペーパーサート・ロールプレイ用



ペープサート・ロールプレイ用



ペーパーサート・ロールプレイ用



ペーパーサート・ロールプレイ用



ペーパーサート・ロールプレイ用

